

# 林道 てくてく

江戸の賑わいを残して 伊勢原市大山 『阿夫利林道』



県内にも江戸の風情を残す所は、神社仏閣など数多くあるが、家並にその名残を留める所はそう多くはない。

相模平野の西に聳える三角形の大山は、古来神の降りる山として、また阿夫利山、雨降り山とも呼ばれ、稲作には欠かせない水の源として敬われ、山岳信仰の対象となってきた。

今回の「林道てくてく」は、その大山の懐深く分け入るように造られた県営「阿夫利林道」を歩き、大山寺から江戸の賑わいを残す大山の町を下ることにした。

## 大山街道

大山街道は、大山参りの道。江戸からの矢倉沢往還、東海道の戸塚からの柏尾道、そして西からは秦野市蓑毛から通じる蓑毛道と放射状に大山に向かって数多くある。

大山参りは、江戸庶民の信仰と物見遊山をかねた代表的な場所の

一つで、大山から江ノ島の弁天様に寄って帰る旅が人気であった。

## 大山の麓に向かって

小田急線伊勢原駅から大山行きのバスに乗る。伊勢の人によって開かれたのが市名の由来ともなっている伊勢原の市街地を抜けると、往時の大山街道の面影が色濃く残る家並の中の狭い上り坂の道を進



大山街道と家並み

み20分ほどで、宿坊や旅館が並ぶ大山町（旧坂本村）の入口にあたるバス停「大山駅」に着く。

土産店のそばの駐車場を横切ると、そこが林道の入口である。

## 阿夫利林道

ここからは一本道。起点からおよそ3kmは浅間山林道という名称で、分岐から先が阿夫利林道である。幅員4m、浅間山林道を加えて、約6km強の道である。

昭和45年（1970）に完成した行き止まりの林道である。

## 林道沿線の森林

林道沿線はスギ、ヒノキの人工林である。樹齢は平均すると40

年から50年生の林。戦後に植えられた幼木がこの年月をかけてようやく見上げるような一人前の木になった。木材としてデビューできる大きさである。

林道の沿線は、県が推進している「水源の森林づくり事業」の契約地が多く、事業で手入れされた人工林が美しい。明るくなった林内は、下層植生も侵入し、木々も伸び伸びしているようである。



手入れされた人工林

ミズキの植林地がある。地元の特産でみやげ物として、今でも作られている「大山独楽」の材料とするために30年ほど前に植えられたものである。独楽にするには太くなりすぎたようだ。

木を植え育てるのには数十年の年月が必要である。歴史ある寺院の改修に使われるような大木は国内では求めにくくなっている。明治神宮のあの大鳥居も台湾産のヒノキであると聞く。

千里の道も一歩からである。数百年後の人達に同じ思いをさせない森林文化を残すための森があってもいい。気ぜわしい現代にあっても悠々と志を持って木を植え育てていきたいものである。

## 大山原生林

林道を歩いていると大山沢の対岸にイヌシデ、ナラ、イロハモミジなどの夏緑広葉樹林の中にモミの木が点在して林立する素晴らし

い森林景観を見ることができる。

大山阿夫利神社の社藪林で、その面積は130ha余あり、1966年に大山の原生林として、県の天然記念物に指定された。

一時、大気汚染の影響等で枯れた白いモミの木が目立つようになり、その様は何とも不気味で自然が私達に警鐘を鳴らしているのではないかと不安を掻き立てた。



大山の原生林

阿夫利隧道が見えてきた。この隧道を潜った先ガ林道の終点である。暗い70m程の隧道を抜けると阿夫利山大山寺の裏手に出る。

### 大山寺

大山寺は、元は現在の阿夫利神社下社の所にあったが明治の廃仏棄却で取り壊されたため、現在の地に旧不動堂に模して明治18年に建立されたものである。

国の重要文化財に指定されている鉄造不動明王像で知られている。



大山寺

### 大山ケーブル

ここからは下りの道となる。

疲れた人は、すぐ近くの大山ケーブルの「不動前駅」から帰るの

もよい。わずか数分で追分駅である。このケーブルカーは、全長786m、最大勾配25度30分。昭和6年に開通したが、戦中の休止期間を経て、昭和40年に再開されて現在に至っている。

### 江戸の賑わい

下り道には女坂と男坂がある。右手の女坂を下ることになる。

苔むし擦りへった急な石段は、喘ぎ喘ぎ上ったであろう多くの参詣者の汗と様々な思いを閉じ込めているかのようである。



爪切り地藏と急な石段

足元に気を使いながら下ると、ほどなく狭い階段通路の両側に大山参りのお土産に名物の独楽や饅頭等を売る店が立ち並ぶ所に出る。



階段沿いのお土産店

店を覗いていると、なぜか懐かしい気持ちにさせられ、かつての江戸の賑わいが目に浮かぶ。

追分駅を過ぎると、バスのターミナルはすぐそこである。

ここからバスで伊勢原の駅に戻ってもよいが、せっかく来たのだから、もう少し門前町の風情を楽しみながら歩くことにする。

静かな旧参詣通り沿いには、良弁滝、愛宕滝などがあり、宿坊や旅館が建ち並ぶ。

### 関東大震災の土石流

ここ大山で忘れてはならないことがある。

今から80数年前の大正12年9月1日に発生した関東大地震は、県内各所に土石流被害を起こしたが、ここ大山も大規模な土石流により大きな被害を受けた所である。

地震により山肌に無数の地割れができ、そこに9月14日からの豪雨が流れ込み山崩れが発生した。

土砂や樹木が各所に堆積し、15日になって土石流となって山を



神奈川の林政史から大山の土石流被害

駆け下った。住民は、事前に危険を察知して逃れたが、家屋が押し流され、埋没する等の大きな被害を受けた。翌年の大正13年から、崩壊した山地を復旧するために治山工事が開始され昭和50年代まで続く。現在、山々は木々に覆われ、災害のあった事など想像すらできないが、林内に入れば、当時現地で採取し、積み上げた空積み土留工や苔むした水路をそこかしこで見ることができる。

地震や豪雨は防ぎようがないが、この経験と教訓を活かし、伝え活かしていくことが山地災害の防止や軽減対策には欠かせない。

(H21,5 瀧澤)